

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4272200132 | | |
| 法人名 | 有限会社 グループホーム天意 | | |
| 事業所名 | グループホーム天意 | ユニット名 | |
| 所在地 | 長崎県五島市大荒町1310番地12 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年5月16日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年7月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F | | |
| 訪問調査日 | 平成26年6月10日 | 評価確定日 | 平成26年6月23日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者ご自身の意思を尊重しながら、できることは職員と一緒にこない、できずらいことは、「してあげる」ではなく支えあいながらの姿勢で共に和気藹々と過ごされている。旬の野菜、魚もいち早く食卓に上がり楽しませている。野菜の皮むきや切ることが得意なご利用者が数名おられ、毎日のように昼食、夕食の準備を手伝って下さり、生き活きとされている姿がみられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム天意”の理念は、『笑顔と元気と温かい介護でほっとする家庭。その人らしさの専断を自己決定権』と捉え、今その人にある機会を活かす介護を探索しようである。ホーム内では“ほっとする”時間が流れ、ご自分のペースで生活されている。管理者を中心に、職員のチームワークも良くなっており、言葉遣いにも配慮し、日々“待つケア”が続けられている。ケアの前には必ず声かけが行われるようになり、「今日は何をしましょうかね」と言う職員からの質問に、天気の良い日は「買い物」や「散歩」と言われる方が多く、職員と一緒に出かける姿が日常となっている。リビングの外に遊びに来る子猫を眺める事も楽しみで、ご利用者の皆様は愛おしい目で子猫を見つめておられた。グループホーム“天意”の名前は、“思いが天まで届け!”と言う願いを込めて施設長が命名されており、今後も日々の生活の中で、ご利用者お一人お一人の思いを大切に把握し、今後も“その人らしさ”が発揮できる機会を増やしていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフ会議などの時に、自分達の振り返りをおこない又新人職員にも必ず、施設長、管理者がホームの理念、介護目標などを伝えている。 | 理念の最初に掲げている、「笑顔と元気で温かい」介護でほっとする家庭を目指し、食事は手作りで、地元の方言などを交えて会話をするように心がけている。「その人らしさの尊厳を自己決定権」と捉え、日々の生活の中で、ご本人の意思決定を大切にされている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運動会、敬老会などホームの大きな行事には、地域の住民や近くの保育園児の声かけをおこなっている。地区の総会や会議には、代表が出席している。 | 福江中学の職場体験で、「福祉に進みたい」という学生には仕事のやりがいや辛さも伝えており、「ケアの仕方が理解できた」等の感想文も頂いた。敬老会にはボランティアの方も来て下さり、楽しいひと時となっている。近隣のお墓参りに来られた方には、ホームの駐車場を提供している。 | ご利用者は、子供達との交流を喜ばれている。今後も引き続き、ホームの運動会や敬老会、納涼祭等で保育園児の方に踊りを披露して頂くなど、子供達との交流の機会を増やしていきたいと考えている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 散歩時などに地域の人達と話す機会を多く持つことで、相談を受けたり、アドバイスできることもあります。お役にたてることがないか心がけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催している。会議でご利用者さんの健康状態、行事、防火安全などについて、その都度ご意見をくみあげながら、サービス向上に繋げている。 | 25年度には、消防署の方からスプリンクラーの作動の事や避難誘導に関する講和をして頂いた。外部評価(自己評価)結果も報告し、今後の取り組みへのアドバイスを頂く事ができた。会議には、ほぼ全員のご利用者が毎回参加されており、ご利用者も一緒に資料を読まれている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 生活保護、権利擁護、障害担当者に、手帳の更新手続き医療券などの発行受診などについての相談と連携をおこなっている。 | 介護保険の申請等も含めて、市の窓口を訪問している。市の担当職員とは顔見知りであり、ホームの状況を報告している。医療費の負担金の事や手帳に関する相談をした時も、親身に相談に応じて下さり、病院への連絡などもして下さった。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを職員で話し合い、職員も拘束について理解して支援に当たっている。新人職員にも、どのようなことが拘束にあたるかなども伝えている。 | 「身体拘束ゼロへの手引き」やマニュアルもあり、職員にも伝達している。家族とも相談し、転落の可能性のある方には畳に休んで頂いている。身体拘束を一時的に行う場合も、スタッフ会議で話し合いを行っている。入居時に混乱が強かった方も、入居後は笑顔が見られている。 | 今後も、身体拘束の3つの要件(切迫性・非代替性・一時性)を満たしているかの検討を深め、記録に残していく予定である。特に“非代替性”に通じる対応方法を数多く検討し、諦めない取り組みを続けていきたいと考えている。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の具体的内容を挙げ、職員に伝えている。又虐待行為などが見過ごされることがないように、注意を払いながら、問題意識の徹底を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護を利用されているご利用者さんもおられるので、外部研修に参加したり、権利担当職員に質問をし、ご家族の相談にもなっている。(契約解除についても学ぶことができた) | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前には、ご利用者、ご家族に見学をしていただき、説明をおこない、質問などもうけている。契約時は、内容、重要事項の説明をおこない、疑問に思うことも遠慮なく言っていたりするように常に申しあげている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者が地元でなじみの関係ができています。職員もご家族を知っている人が多く、面会時は、要望なども職員や管理者に遠慮なく話されている。 | 面会時や電話の時に、家族に暮らしぶりを報告しており、“天意だより”も復活させる予定である。「買い物の日を多くしてもらいたい」「夕し券を使い、自分で本を買いに行きたい」「できる事はさせて欲しい」「脳トレをさせて欲しい」など、ご本人や家族から要望を伺っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議で職員一人一人の意見を聞きながら、運営に反映させている。 | 毎月の会議には職員全員が参加し、行事の反省会等も行っている。社長にも意見が伝えやすく、施設長も日々の頑張りを評価して下さっている。早出、日勤、遅出の業務分担を明確にする事で、ご利用者と関わる時間が増え、研修にも交代で行けるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすいような勤務時間の調整や、楽しくやりがいのある職場作りの為に、施設長、管理者も努力し、職能評価もできている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者は職員一人ひとりのケアについても、力量、考え方についても把握し、研修参加の声を聞きおこない、参加できるように配慮している。認知症ケア学会にも参加している職員もいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームの事例発表などにも参加し、交流をおこなったりして、質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人さんの困っていること、不安なこと、どのようにしてもらいたいかなどを、まずじっくりと聞くことに重点を置き、要因、背景を探っていくよう取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の困っていること、要望、不安を聞き、わかりやすく掘り下げて説明をおこない、聞き忘れた事はいつでも対応できる関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居の相談があったときは、事情などを伺うなかで、必要に応じて連携施設や、他の介護保険施設などの説明をわかる範囲でおこない助言をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | リハビリ体操や、脳トレ、歌など楽しむ中で、興味のあることは、声かけしている。また野菜などの下処理の得意なかたにはお任せして、刻み食のかたの刻みもして下っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様には、面会時は日ごろの状況をお伝えしたり遠方におられる方には、電話、手紙で知らせている。ご本人さんの誕生日や行事の時は、一緒に食事などをしていただけるよう呼びかけをおこない、一緒に楽しむことができるようにしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご利用者と一緒になじみの店に出かけたり、牛を見に出かけたり、遠方にいる友人と手紙のやりとりができるように支援に努めている。 | 地元の民生委員の訪問も恒例で、馴染みの方々の面会は多い。同一敷地内の有料ホームやデイの利用者とも交流があり、楽しいひと時を過ごされている。職員が美容院やスーパー等にお連れしており、お墓参りや地元のドライブにも行かれ、玉之浦の灯台も喜んで下さった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクレーションや食事、おやつ時、日向ぼっこ、散歩などの時、職員は互いの関係に配慮し、特に座席の配置にも配慮し、ホール内で支えあえる関係が築かれている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 一度ご縁があって入居されたことを大切にしていき、退去後もご様子などをご家族、親類に伺うなど気軽に声かけなどもして下さり、時にはご相談もうけることもある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時はもとより、一人一人の思いや暮らし方、これまでの生活ぶりなどを、ご本人から聞ける時はお聞きし、その人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。 | 食事作りや入浴中の会話などから、ご利用者の思いを把握している。意思疎通が難しい方は、しぐさや行動から把握するように努めており、聴覚障害の方とは筆談も行っている。ご利用者や家族の意向を記録に残し、職員全員で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 地元でその方の生活ぶり、環境を解る職員も多く、個々の希望などをお聞きし、職員会議でだしあっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人のできること、得意なことは見極めを常に職員間でだしあい、把握している。その時の状況に応じて、できる日もあるので声かけはおこなうが、無理せず本人の意向に任せている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族が面会に見えられた時、ご本人を交えて話し合いをおこなっている。島外におられる方には、お電話で話をお聞きしている。職員会議でカンファレンス、モニタリングをおこない介護計画を作成している。 | 計画作成担当者が計画の原案を作成し、毎月の会議で検討されている。ご利用者等にわかりやすい言葉で表現されており、ご本人のお好きな事(本を読む、編み物をする、買い物等)も盛り込まれている。リハビリの視点も大切にしており、生活リハビリ以外に脳トレなども行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のケアにチェックをおこない職員が情報を共有できるようにしている。実践、結果から気づき見直しなども話し合っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療機関への受診援助、友人親類宅への訪問援助希望により自宅への外出などできることは、柔軟な対応をしている。中学生の体験学習の受け入れ、ボランティアも希望があれば受け入れる。 | | |

| 自己 | 外部 | 外部評価 | | | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 難聴がありながらも、一人で外出がしたい希望があり、タクシーの運転手さんへ、筆談で伝えて下さいとお願いしたり、事前に商店のかたにも伝え目的が果たせるよう配慮した。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人やご家族には入居時に、医療を受ける際のご希望をお聞きし、要望に沿って対応している。身体状態の異変や異常には、早期発見、受診を心がけ症状に寄っては、医療機関をご家族と相談しながら選んでいる。 | 受診は主に管理者が行い、状態変化時は必ず家族に連絡している。必要に応じて家族も同席し、一緒に受診結果を聞かれている。協力医療機関（五島ふれあい診療所）からの往診もあり、24時間体制で主治医と連携が取れるため、職員の安心になっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホーム内の看護師が休みの時は状態を伝え、主治医への連絡、相談もおこない受診やホームへの往診などもしてもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時は、管理者や看護師が責任を持って対応にあたり、病院内の連携室と相談をおこないご家族にも伝え理解と了解を得るようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時から、ご本人、ご家族の意向などをお聞きしている。重度化した場合や終末期にどのようにしたいのかなどもお聞きして話し合いもしている。ホーム内でできること、できずらい事なども明確にし、ご家族、主治医と連携し取り組む姿勢を示している。 | 「最期はここで・・・」と希望される方も多く、お墓への思いを伝えて下さっている方もおられる。「終末期の介護も、心を込めて行う事」と言う、全職員の共通方針のもと、随時、医師や家族との話し合いを続け、職員全員で終末期ケアが行われている。施設長も看護師であり、職員も必要時に相談ができています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時のマニュアルもあり、看護師から学ぶ機会もあるが、いざという時はパニックになる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 災害時の避難訓練は、年2回総合（通報、避難、消火）を行っている。運営推進会議においても消防署の職員に参加していただき、職員も意識を持って取り組んでいる。 | ご利用者と消防署、消防団、消火設備業者と一緒に、併設施設と合同で昼夜想定訓練を行っており、町内会長も見学に来て下さった。山水が多い地区でもあり、市役所に溝の対策をお願いしている。市から注意報が有線で流れてきており、日常生活に活かしている。災害に備え、水、米、乾物、救急箱などを準備している。 | 今後も引き続き、近隣や地域住民の協力体制（役割分担）を改めてお願いに行くと共に、昼夜を問わず、全職員が通報・避難誘導ができるように、2ヶ月に1回は自主訓練をしていきたいと考えている。 |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者の気分をこわさないような声かけや、コミュニケーションのとりかたについては、常に話し合いをおこない対応に心がけている。 | ご利用者は人生の大先輩であり、「ご利用者から学ばせて頂く」という姿勢を大切にされている。声の大きさと言葉遣いにも配慮しており、ご本人にも確認し、昔の馴染みの呼び名を使わせて頂いている方もおられる。個人情報の管理も徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 手伝いごとなどや食べ物、飲み物などでもできるだけ選択の幅をもたせご本人の希望にそうようになっている。(自分で決められている) | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | そのひとらしさを大事にし自分のペースで過ごされている。職員も待つ姿勢で臨むようにしている。「今日は何をしましょうかね」と問うと天気の良い日は買い物、散歩との声が多い。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 行きつけの美容院にいきたい時は、予約を入れたり、送り迎えの支援もしている。外出時はお化粧をしたり、洋服を選ぶお手伝いもしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬のもの(ツワ、フキ、ソラ豆、グリーンピースなど)を職員もいち早く食べていただくこと、持ってきて皆で処理して食べることが楽しみである。カレーや麺類、肉類が苦手な方には別メニューにしている。 | 米や野菜などを社長が作られており、新鮮な食材が使われている。ご利用者と買い物に行き、食材を選んで頂いている。キジナをおびいたり、下膳などもして下さり、ご利用者が別の方の料理の刻みもして下さっている。今後も、職員も一緒に食事をする機会を増やす予定である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量、水分は毎日把握し、日中足りない分は、夜間時に摂っていただいている。嚥下困難な方がおられ、刻み、とろみをつけたりしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後は、歯磨き、義歯洗い、口腔ケア一時は舌状ブラシを使いおこなっている。1週間に1回義歯洗浄液に浸している。ご本人にさせていただくが、仕上げは職員がすることもある。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックを用いて、排泄状況が全職員わかるようにして支援に努めている。特に食後は排便がみられることが多いので声かけしトイレ誘導を試みている。 | トイレでの排泄を大切にされている。トイレに行かれる事を拒まれる方もおられ、職員が交代したり、尿取りパッドが汚れる事でのコストを説明し、スムーズにトイレ誘導ができるようになった方もおられる。自然排便ができるように医療連携も行い、引き続きの検討を続けていく予定である。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便歩気味のご利用者さんには、原因と思われることをみつけ、薬を増やさずバナナ、牛乳、水分を多めに摂っていただいたり、イモ類やヨーグルトなどを勧めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 夏場は3～4回、冬場は2～3回入っている。早めの時間がいい人、遅めがいい人、湯船に長く入っている方、個々に寄って支援をしている。 | お風呂好きな方ばかりで、ご希望に応じて入浴されている。湯船に浸かる方が多いが、湯船に入る事が怖い方は、足浴をしながらシャワー浴をしている。排泄の失敗時や発汗が多い時等は適宜入浴を行い、入浴時は職員との昔話を楽しまれ、柚子湯も楽しまれている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中倦怠表情がみられる時は、居室で休んでいただくなど適時休めるよう無理のない生活が送れるよう支援している。睡眠状態の把握もおこない日中の過ごし方にも配慮している。布団干しもこまめにおこない気持ちよく休めるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々のファイルに処方せんを貼っているため、どんな薬をのんでいるかは、直ぐ職員は解るようにしている。副作用などについて、スタッフノートを活用したりして把握に努めている。確実に服用できているかの確認もおこなっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 野菜の下処理、切ることの得意な方もおられ毎日のようにして下さる。新聞折りや、ゴミ箱作り、編み物など個々の趣味やできることを継続している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気がいい日は日向ぼっこ、ウッドデッキで昼食をしたり、散歩、ドライブ、花見、買い物などの外出支援もしている。市街にいる子供さん方が帰省されたときは、外出、外泊ができないかお聞きし、ご家族や、親戚の方々とお過ごせるよう時間をつくっていただけるよう、声かけをおこなっている。 | 外出好きな方が多く、周辺の散歩を楽しまれている。リフト車もあり、車いす利用の方もドライブに行かれており、「ここに来てた」等の昔話が盛り上がっている。季節に応じた花見も行われ、空港で飛行機の見学をされたり、牛舎で子牛の成長を見る事を楽しみにされている方もおられる。シティーモールでの買い物や外食にも行かれている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人さんがお金の管理ができる状況を判断し、使えるお金をご家族からあずかるようにしている。買い物に行かれる時は、自分で支払いをされている。職員がおつりなどの確認をさせてもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 必要性やご本人さんの希望に応じて、ご家族や友人などに電話を繋いだり、手紙を出したり、年賀状を購入したりの支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールから玄関への出入りが自由にでき、玄関の両横には、四季の花を植えている。職員もバタバタと行動しないようにしたり、調理の時は鍋蓋など落とすことでびっくりすることがないように注意している。ホールでは有線の音楽を流し、童謡がかかる口ずさんでいる。 | リビングでは調理の音を聞きながら、団欒されている。料理の本を読まれる方や、畳の間では洗濯物をたたむ姿も日常で、ゆったりとした時間が流れている。廊下の奥には日向ぼっこのできる木の椅子があり、外を眺めながら過ごされている。草取りが大好きな方もおられ、職員と一緒に草取りをされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールやウッドデッキの長椅子では、なじみの方々が過ごせる場所がある。ホールの畳で過ごされたりされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、写真、飾り物、ぬいぐるみなどをもってこられている。自宅で使っていた洋服入れも持ってこられ、不安なく自由に出し入れされている。 | フローリングと畳の2種類の部屋がある。畳の上には横になって本を読まれたり、畳に座って編み物をされる方もおられる。時計の高さも見やすい位置に掛けられており、タンスや椅子、鏡台なども持ち込まれ、愛用のヘアブラシや化粧品を使われている方もおられる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 歩行障害などがある方には、なるべくトイレ、洗面所に近い場所に席を用意している。トイレの場所や居室がわかるように花で目印をつけたり、名前を大きく書いている。 | | |